

第 189 回ペン川柳（お題＝燃える・燃やす）令和 2 年 1 月 27 日

世話人：塚田 實（^だ ^だ 拿々）

代行：平尾（^{ウオッカ} 酔深）、三春（火酒）

（*印は今月の互選五句、*は最優秀句）

1. 燃えさかる邪悪の炎か恋の火か（損得＝細谷）→ 0 票
作者は「SNS だけを信じて性的な被害どころか生命まで危険に及ぶのに気が付かない若い女性が多い」と嘆きますが、川柳としてはいまひとつ伝わってきませんね。
2. 燃やすなら古い恋文今のうち（井波＝稲宮）→ 2 票
「今のうち」の時間に関して曖昧さが残り、インパクトに欠けました。恋文の持ち主が生きている間にといえるのでしょうか、それとも単に奥方（ご主人）に見つかる前にといえるのでしょうか？
- * 3. 情熱が燃えて失う自制心（酔深＝平尾）→ 4 票
結婚歴五十数年の作者は「若気の至りか、恋の熱に浮かされて理性を失い、今の妻との結婚を決めてしまった」と反省していますが、あまりにも遅すぎた反省です。でも、恋愛の終着駅である結婚は、当事者の自制心の消滅の結果だとも言われますね。
- * 4. 白髪染め燃える男のいじましさ（安兵衛＝山縣）→ 3 票
元句は「燃えてる男のいじらしさ」でした。下五は「いやらしさ」が添削候補に挙がりましたが、白髪染めを使っている川柳子から「言い過ぎだ！」との声上がり、「いじましさ」に落ち着きました。
5. ガン告知いつ燃え尽きると医者に問い（我々好＝浜田）→ 1 票
告知されたペンクラブ会員もいますが、「燃え尽きる」でちょっと悲し過ぎる内容の句になるためか、1 得点止まりでした。場の川柳子たちにとって触れたくない話題？
6. 心燃えときめいた日々懐かしい（不言＝岩崎）→ 0 票
元句は「心燃え胸ときめいた日々懐かし」でした。上五の「心燃え」と重複する上に字余りになるので「胸」は削除されました。その結果、下五は「懐かしい」で収まりがよくなりました。作者は Betty ちゃんに恋した昔を思い出しているのでしょうか。
7. 燃やしたね今も気になるあの手紙（晃二＝安藤）→ 2 票
元句は「燃やされた今なら削除あの手紙」でしたが、ちょっとわかりにくいですね。今は恋文もメールの時代、「削除」で事は済みます。昔もらった恋文の束(!?)を今も大事に保管しているという声もあがりましたが、もちろん無視されました。
8. 揺れる腰追った若さは燃えて散り（酔雅＝西川）→ 0 票
「揺れる腰」をいまだに（目で）追っている作者です。テニスで鍛えた腰はまだ使えそうですが、髪の毛を見ると確かに「若さ」は散りましたネ！

9. 燃えるゴミ燃やせるゴミとなおす奴 (明迷＝八木) → 0 票
確かに、「燃えるゴミ」は“今燃えているゴミ”の意味になりそう。これは「燃やせるゴミ」に改めるべきですね。正しい日本語を使いましょう！
10. 秘□開け燃えた昔が走馬燈 (酔雅＝西川) → 0 票
マル秘の印が押された書類を見つけると、ついこっそり開きたくなる衝動にかられましたよね。そんな昔が思い出されるという作者ですが、実は今も週刊誌の袋綴じのページを真っ先に開いてしまうのです。
- * 11. 濡れ落葉くすぶるだけで燃えやせん (火酒＝三春) → 2 票
「濡れ落ち葉」とは、平成元年の頃に流行った言葉で、「仕事も趣味も仲間もなく、妻にべったり貼り付いて離れようとしないう定年退職後の男」の意で、企業OBペンクラブの会員には無関係(!?)な用語です。
12. 空襲で燃えた町内また地震 (不言＝岩崎) → 0 票
作者は第二次世界大戦の東京空襲を体験しました。東日本大震災では火事にならなかったものの、真っ先に思い起こしたのは80年前の燃えさかる町の光景でした。
13. 怨念の振袖宙に江戸燃える (晃二＝安藤) → 2 票
江戸時代最大の「明暦の大火」は俗にいう振袖火事。恋の病で亡くなった17歳の娘の怨念の炎が江戸中を焼き尽くした？ 本当は武家の失火でしょ？ これを機に江戸の防火対策が一段と強化されたようですね。
- * 14. ゴミ減らせ燃やすと増えるCO₂ (損得＝細谷) → 3 票
社会派の損得さんらしい句ですね。南米では森林を燃やしてしまうし、先進国では大量のゴミを燃やすし、やれやれ困ったもんです。
15. 燃える水環境派から総スカン (拿々＝塚田) → 1 票
「燃える水」とはもちろん石油のこと。枯渇するまで石油を使い続けると、それだけで地球温暖化は深刻なまでに進行すると考えられています。石油化学業界も環境保全に取り組んでいるそうですが……、間に合うかなあ(☹️)(☹️)
16. 老いの恋燃えてもくすぶるばかりなり (我々好＝浜田) → 1 票
実感がこもっていますがひょっとして現在進行形ですか？ 元句は「燃えてくすぶる」でしたが、「燃えても」に直すことで哀愁が漂いますね。
17. 稲束を燃やして津波を告げた過去 (だし＝大野) → 0 票
大切な稲むらに火を放って村を救った老人の物語「稲むらの火」は昭和12～22年の小学校教科書に載っていたそうです。今は農地で稲むらを見ることもなくなりましたね。「ネ～お爺ちゃん、稲むらってなあに？」と子供が尋ねてましたっけ。
18. 寒いねと札束燃やす見栄っ張り (火酒＝三春) → 0 票
作者の家では火鉢に札束をくべて暖をとっているそうです。お正月には「絵に描いた餅」を食べ過ぎて体重が増えたそうで。

19. ばれるより燃やしてしまえあのリスト (安兵衛=山縣) → 2票
「桜を見る会」を風刺しました。たとえリストを燃やしても、人の口に戸は立てられませんよね。
20. 若き血に燃えた思いは今何処 (拿々=塚田) → 0票
学生時代や社会人一年生の頃の熱き血潮を思い出すと、今の生ぬるい生き方との違いに愕然とします。場の川柳子たちはいずれも赤面、得票なし。
- * 21. 燃やしてもまた燃やしても消えぬ過去 (だし=大野) → 4票
「燃やす」のリフレインが効いていますね。一体どんな過去を背負っているのか、皆でじっくり聞いてあげましょう!!
22. 燃え上がるこれ芸術だ火焰土器 (井波=稲宮) → 0票
「芸術は爆発だ!」と言った岡本太郎に因んだ話で盛り上がりました。「火焰土器を自分で作ろう」が隠れたブームですってね。
23. 年老いてホカロン入れて恋に燃え (酔深=平尾) → 2票
元句は「年老いて手足冷えても恋に燃え」でした。「ホカロン入れて」にしていればTOP間違いなしだったのに、惜しい!!
24. 濡れ落ち葉燃えて身軽になりし妻 (明迷=八木) → 1票
火葬場で妻は「あ〜、せいせいした!」と思うのでしょうか……。身につまされた濡れ落葉たちは票を入れることも忘れてションボリ。女性票1票のみに終わりました。

出席6名 = 稲宮健一 (井波)、安藤晃二 (晃二)、平尾富男 (酔深)、三春 (火酒)、西川武彦 (酔雅)、浜田道雄 (我々好)

欠席投句6名 = 岩崎洋一郎 (不言)、大野ただし (だし)、山縣正靖 (安兵衛)、八木信男 (明迷)、細谷博 (損得)、塚田實 (拿々)

欠席投句なし = 松谷隆 (零門)

2月以降のお題：
2月24日 (月) 「火」
3月23日 (月) 「水」
4月27日 (月) 「歩く・歩む」
5月25日 (月) 「風」
6月22日 (月) 「傘」